スパルタシスト SPARTACIST

iclOnTheRoad@proton.me • @icl_nihon • iclfi.org

# 社会主義者はイランの側に立たなければならない！

【4月7日】米国帝国主義は攻勢に出ており、その腐敗した帝国を守るため世界中に死と破壊をまき散らしている。すなわち、パレスチナ人の大量虐殺への援助、ベネズエラのマドゥロ大統領とその夫人の拉致、キューバに対する飢餓などの政策を実行している。米国の虐殺者とそのシオニストの同盟者たちは、イランを破壊しようとして、学校や軍事施設、そして重要なインフラを爆撃している。イスラエルによるレバノン南部への侵攻、そして衝突が湾岸諸国へと波及していることは、波打つ大混乱が拡大するさらなる兆候である。トランプとネタニヤフの狙いは、米国とイスラエルの地域支配に対する対抗勢力として、イランとその同盟者たちを排除し、彼らを徹底的に叩き潰すことにある。

イランはまた、米国に完全に依存し、トランプに逆らうのを望まない日本のような従属的な帝国主義の走狗諸強国とも対峙している。彼らは今日、自身の軍を動員しない理由として「国際法」や憲法上の制約を挙げるかもしれない。しかし、彼らは近東をアメリカの鷲の爪の中に閉じ込め続けることに全面的に尽力しているのだ。イランは、世界の帝国主義覇権国とそのシオニスト同盟国から自国を防衛するため、正当な防衛戦争を戦っている。イランの勝利と米国帝国主義への打撃は、イスラエルによるパレスチナ人の虐殺を妨げ、中東での米国とイスラエルの支配を弱体化させるだろう。それは、世界中の被抑圧者や労働者のための闘争に強力な弾みを与えるだろう。

すべての左翼および労働者階級の闘士は、自国の帝国主義に打撃を与えることで、イランの勝利を支援するため活動すべきである。これには、抑圧された国々にとって基本的な防衛手段であるイランの核兵器保有の権利を擁護することが含まれる。 レーニンが第一次世界大戦中に『社会主義と戦争』で記したように、「社会主義者ならだれでも、抑圧され、従属させられ、同権をもたないこれらの国家が、抑圧者、奴隷所有者、略奪者である『大』国にたいして勝利をおさめることに共感をよせるだろう。」

日本では、数万人が、戦争、高市による改憲への決意、そして自衛隊の派遣の脅威に抗議するため街頭へ繰り出している。戦争と、アメリカの戦争を支援するためにも利用される日本の軍事力の強化・拡大は、阻止されなければならない。問題は、それをどう実現するかということである。こうした抗議行動の多くは、政治的にブルジョア勢力と協調して、共産党、社民党、新社会党により主導されている。 こうした党は、1990年代のイラク戦争、2000年代初頭のアフガニスタン戦争、そして2015年から2016年にかけてのSEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）の抗議行動の時と正に同様に、再度、大衆の正当な怒りと恐怖を、米国と日本の帝国主義にとって安全な範囲へと逸らそうとしているのだ。

当時の運動も、今日と同様、「戦争反対」とか「戦争を止めろ」といった平和主義に基づく要求の上に築かれていた。こうしたスローガンは、当時も今も、ブルジョア・リベラルからの支持を集めるよう意図されている。こうしたブルジョア・リベラルは、戦争を継続させ、国内でより過酷な弾圧を実行する責任を負う真の勢力である階級に属しているのだ。だからこそ、こうした抗議行動は、戦争や新たな安全保障立法、さらなる軍事化を阻止するのに無力であった。

変化をもたらす唯一の道は、米国、ひいては日本の帝国主義に実害を与えるものである。例えば、アフガニスタン戦争中に佐世保の港湾労働者たちが行ったような**武器輸送を阻止する**労働者階級の行動とか、ベトナム戦争中に起きたような**米軍基地での日本人労働者によるストライキ**などがそれにあたる。労働者階級の野党がこうした手段を追求するなどあり得ない。彼らの目標は、繰り返しになるが、帝国主義の仕組みを妨げることがない反戦運動を再構築することにある。

労働運動は、ここでも、そして世界中でも、この戦争において何の独立した役割も果たしていない。日本では、労働組合の指導者たちは自国帝国主義者たちと結びついており、その帝国主義者たちは、国際的な地位を米帝国に依存しているため、結局のところ米国と結束している。全労連は、その典型的な例である。 全労連は、米国とイスラエルによる攻撃に「強く抗議」する一方で、「現状の変更を許さない」こと、そして「憲法を守る」ことを誓っている。同志レーニンが指摘したように、ブルジョアジーは自身の利益に合えば、常に法や憲法を踏みにじるものである。この戦争において労働者階級を一勢力として動員するためには、労働者とその指導部との間にくさびを打ち込む必要がある。

この時期における真の共産主義者の任務は、戦争に対する正当な反対運動を現在の指導部の手から奪い返し、反帝国主義の極を築くために戦うことである。 この点において、新左はどのような立場をとっているのか？彼らの記事の奥の方に埋もれているが、中核派はイランには抵抗する権利があると書き、革マル派の機関紙は労働者が立ち上がりイランへの軍事攻撃を粉砕せよと叫び、革命的共産党・日本支部は侵略に対してイランを無条件に防衛すると主張している。こうした正しい立場は行動に移す必要がある。

しかし、こうしたグループは、この立場を実現するために何をしてきたのか？イランには自衛する権利があるという正しい理解から出発しながら、これらのグループのいずれも、自身の寄って立つ立場、すなわちイランを防衛するという主張に基づいて現在の抗議行動に介入していないくて、反戦運動を築き上げてはいないのだ。この点で、彼らはリベラルな「反戦」派と何ら区別がつかないのである。

革命的な介入とは、紙上に言葉を羅列したり、赤旗を振りかざして資本主義を非難したり、あるいは別個に小規模な集会を開いたりすることではない。必要なのは、共産党などにより押し出されるものとは異なる戦略を提示して、労働運動内部で政治的闘争を行うことである。抗議行動を護憲の平和主義から解き放ち、正当な反戦感情を戦う反帝国主義同盟へと導く戦略である。これこそ、国内における高市やボスたちの攻撃を撃退することにもなるのだ。

**ブルジョア政党と決別せよ！ 戦争遂行を不能にする階級闘争を！ 帝国主義に対し一線を画したいと願うすべての左翼、活動家、労働者は、統一戦線の抗議行動に加わり、次なることを要求すべきである。米国・イスラエルの攻撃からイランを防衛せよ！**

## 米・イスラエルの猛攻を止めろイランを防衛せよ！

以下は2月28日付『Spartacist』の付録を翻訳したものである。

米国とイスラエルはこれまで徹底した破壊の跡を残してきた。ネタニヤフはパレスチナ人民を容赦なく虐殺し、トランプは次から次へと国々を攻撃し脅迫している。今や彼らは共同してイランを攻撃している。**この狂気を止めなければならない！イランを防衛しなければならない！**

米国とイスラエルがイランの政権の転覆に成功しても、イラン人民に解放をもたらしはしない。彼らはシオニズムと帝国主義の奴隷となり、米国とイスラエルは好き放題に地域を恐怖に陥れるだろう。イラン全土に投下される爆弾は、政権と人民を区別などしない。今、**イラン人民と共に立つとは、外国の侵略からこの国を防衛するということである。**イラン人民は自らの意志で血にまみれたムラーたちと決着をつけるだろう。もし米国とイスラエルが重大な軍事的打撃を被るか、あるいは国際的な労働者階級がこの侵略に対し強く反対するならば、現在の攻勢に歯止めをかけ、ついにはトランプの破壊行為を止められるだろう。労働者階級、特に米国の労働者階級は、共和党と民主党が国と全世界を死と悲惨の渦に引きずり込んでいるなかで、このことに利益を持っている。労働者階級は、自身の利益のために、行動し、**米国の戦争機械を止めなければならない！**

*****

## 米帝国主義が再び攻撃する

## ベネズエラを防衛せよ！マドゥロを解放せよ！

以下は1月3日付『Spartacist』の付録を翻訳したものである。

米国はベネズエラに対して大規模な軍事作戦を開始し、主要な軍事施設や民間施設を複数回爆撃した。戦争屋の首領であるドナルド・トランプによれば、この作戦によりベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領とその妻、シリア・フローレスが捕らえられたという。

これは、カリブ海地域における数ヶ月にわたった米軍増強の集大成である。その明確な目標は、ベネズエラ政府を打倒し、親米の傀儡政権に置き替え、同国の膨大な石油資源を略奪して、ラテンアメリカ全域に対する米国支配権を取り戻すことである。世界中の労働者と抑圧された人々は、明確な立場を取らねばならない。米帝国主義の侵略に反対し、ベネズエラを支持せよ！マドゥロ大統領を即時解放せよ！ベネズエラ人民は、必要なあらゆる手段を用いて、米帝国主義の侵略に抵抗しなければならない。マドゥロ政権についてどんな意見を持つにせよ、米国によるこの政権の打倒は、ラテンアメリカおよびグローバル・サウス全域のすべての労働者や農民に対する攻撃である。

国連による介入や「国際法」順守の呼びかけはむだな時間の浪費である。この侵略は、より広範な攻勢の第一歩に過ぎない。その目的は、大陸における米国支配へのいかなる抵抗も粉砕することなのだ。必要なのは、ベネズエラへの緊急の軍事支援を含む、ラテンアメリカ全域における反米戦線である。中華人民共和国はここで特別な責任を負っており、武器供給や米国に大きな経済的圧力を及ぼすのに重要な役割を果たしうる。米国の労働者を含む国際労働者階級は、米国の企みに対する抵抗に加わることができるし、そうしなければならない。米帝国主義とその犯罪共犯者に対し、可能な限りデモに立て、ストライキを打て！米国の利益に対するいかなる打撃も、ベネズエラの抵抗運動にとって、非常に必要とされる支援となるだろう。こうした最新の侵略は、国際的に混乱と戦争の主たる行為者がアメリカ帝国主義であることを、改めて示している。米国のミサイルがカラカスに降り注ぐなかで、中国とロシアが米国と同様の脅威をもたらすと考えている人々は、目を覚ます必要がある。労働者と抑圧された人々の団結は、彼らの主要な敵、米帝国主義の覇権国に対抗することによってのみ構築することができる。ベネズエラと共に立て！米帝国主義を打倒せよ！

# 米国による停戦詐欺に警戒せよ

以下は4月8日付『Spartacist』の付録を翻訳したものである。

この記事を書いている時点で、米国とイランの停戦状況は不確かであり、いつ崩れてもおかしくない。しかしながら、何が起ころうとも、反帝国主義者にとって重要な考慮事項は以下の通りである。

この停戦は、米国がイランを欺くための明らかな試みである。これは将来の交渉に向けた曖昧な約束の羅列に過ぎず、その真の目的は、米国とイスラエルが本当の圧力を感じ始めるまさにそのタイミングで、再編と再武装を可能にさせることである。また、この停戦はヒズボラを犠牲にし、ヒズボラをシオニスト国家と単独で戦わせるリスクをはらんでいる。それは完全な裏切りとなるだろう。米国とイスラエルの敗北を望む者は、次のことをはっきりさせなければならない。すなわち、我々は米国から実質的かつ重大な譲歩がなければ、停戦を支持することはできない。

トランプは、イランの10項目の和平計画が交渉の基礎となり得ると宣言した。すべての制裁解除、賠償金の支払い、ホルムズ海峡のイランによる支配、中東からの全米軍の撤退などを含むこうした10項目の達成は、確かにイランにとって大勝利となるだろう。**しかし、トランプの言葉を信じる者は愚か者である。**この「ディール」は、イランが戦闘を停止し、ホルムズ海峡を再開しなければならないことを条件に、将来の交渉に向けた曖昧な約束を並べたに過ぎない。**これは罠なのだ！**我々の要求は次のものでなければならない。**その10項目が実行されるまで停戦はしない！イスラエルがレバノンを砲撃する限り、停戦は認めない！**

停戦が発表されるやいなや、多くの反帝国主義者、パレスチナ支援者、社会主義者が勝利を公言した。これは荒唐無稽である。事態は流動的であり、この停戦をめぐって抵抗勢力内部で緊張が高まっているなかで、社会主義者が断固として立ち、米国との妥協を望むそうした傾向に反撃することはなおさら重要である。「大勝利」を称賛する者たちは皆、戦闘停止を望み、トランプの嘘を鵜呑みにしようとするイラン抵抗勢力内部の一派閥を助けているに過ぎない—それこそまさにイスラエルと米国が望んでいることなのだ。この帝国主義戦争に対する戦いを組織することが任務である西側の反帝国主義者にとって、「勝利」のおしゃべりは無気力な態度へと導くだけである。

我々は、3週間前、現在直面しているリスクについて警告した。そして次のように記した。「もし…イランが再度、米国にとって都合の良い時期に和解を受け入れたら、我々が目にするのは、次の攻撃が始まるまでの小休止に過ぎないだろう。さらに、そうしたシナリオでは、イランが与える損害は、爆撃作戦がイラン社会に及ぼす壊滅的な長期的影響に比べれば、確かに微々たるものとなる。したがって、イラン革命防衛隊の、対立を継続しエスカレートさせる能力と決意に、多くのことがかかっている。」

—「米帝国主義を過小評価してはならない」、『Spartacist』付録、3月16日

曖昧な約束のために戦争を停止しようとする姿勢は、米国を前にして尻込みすることを意味する。**これには抵抗しなければならない。**

私たちの労働力で印刷された